地質学雑誌　第108巻　第9号（通巻1284号）付録　昭和27年6月10日第三種郵便物認可　平成14年9月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 *News*

Vol.5 No.9 September 2002

日本地質学会 *News*

Vol.5 No.9 September 2002

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会／〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル6階
編集委員長 高橋正樹
電話 03-5823-1150 Fax 03-5823-1156
E-mail : geosocjp@ra2.so-net.ne.jp
ホームページ http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj/

表紙写真

富士山垂直空中写真
（2001年11月撮影）
写真提供 富士砂防工事事務所

Contents

日本学術会議第19期会員選出に関わる日程と手続きについて……2

日本学術会議第19期会員候補者の推薦立候補について……3

2003年度日本地質学会新役員 抱負……4–5

案内……6
2002年活断層調査成果および堆積平野地下構造調査成果報告会の開催について/第19回東海地震防災セミナー2002のお知らせ/核燃料サイクル開発機構 平成15年度「先行基礎工学研究」についてのご案内/国際陸上科学掘削計画（ICDP）のプロポーザル募集

公募……6–7
山形大学理学部地球環境学科教官（助手）公募/東京学芸大学教育学部 広域自然科学・理科教育講座地質古生物分野教官公募

各賞助成……7
第5回大学婦人協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

出版物在庫案内……8

新版地質図・報告書類……9
Eastern Asia Geological Hazards Map 1 : 7,700,000 加藤碩一・東アジア地質ハザードマッププロジェクト編（猪俣道也）

学協会・研究会報告……10–11
ナミビア南西部メソ原生代地質帯の地質巡検（IGCP-418/440）（吉田 勝）

博物館だより……12
岩手県立博物館 「化石芸術/第1部：化石芸術～ドイツ・チュービンゲン大学・生痕化石コレクション～/第2部：花巻の足跡化石」

CALENDAR……12

The Island Arc Vol.11, Issue 3；和文要旨……13–14

院生コーナー……14–15
筑波大学大学院生命環境科学研究科地球進化科学専攻海洋変遷科学分野（連携大学院方式）（山田 桂）

平成15年度（2003年）分会費の継続・新規受付開始（院生割引会費申請について）……15

支部コーナー……16–17
関東支部 第10回関東支部火山灰巡検報告/活変動地形判読セミナー2 報告

執行委員会だより……17
2002年第15回執行委員会

2003年The Island Arc誌vol.11購読についてのお知らせ……17

取扱地質図一覧……18

新潟大会講演要旨・見学旅行案内書残部あります！

第109年学術大会講演要旨（新潟）
会員頒価3,500円（非会員4,500円） ＋500円
見学旅行案内書
会員頒価1,500円（非会員2,000円） ＋350円
（セットで購入の場合＋750円）

購入希望の方は，学会事務局までお申し込み下さい.
電話 03-5823-1150 Fax 03-5823-1156
e-mail geosocjp@ra2.so-net.ne.jp

広告取扱：株式会社廣業社
〒104-0061 東京都中央区銀座8-2-9 電話 03-3571-0997 印刷・製本：創文印刷工業株式会社

日本学術会議第19期会員選出に関わる日程と手続きについて

2002年9月13日
日本地質学会執行委員会

日本学術会議第19期会員（2003年7月22日任命）の選出にあたり，本学会として所定の手続きを日本学術会議会員推薦管理会に対して行う必要があります．本学会はその第1段階である学術研究団体登録申請を本年5月1日に行い，平成14年9月13日付けで同管理会から学術研究団体として登録された旨通知がありました．管理会から提示されているその後の概略日程は次の通りです．

2002年11月下旬（予定）	関連研究連絡委員会の指定
同　12月上旬（予定）	会員の候補者の選定，推薦人の指名の依頼
2003年 2 月 7 日（金）	会員の候補者の届け出締め切り
同　2 月20日（木）まで	推薦人（予備者を含む）の届け出締め切り
同　3 月20日（木）まで	会員の候補者の資格の認定等の通知
同　3 月下旬	推薦人に会議開催等の通知発送
同　5 月上旬から 6 月上旬まで	推薦人会議（会員および補欠の会員としての推薦すべき者を決定）
同　7 月22日（火）	第19期日本学術会議会員の任命

登録学術研究団体は「関連研究連絡委員会」により区分される学術研究の領域ごとに予定の数の会員の候補者を選定して届け出ることができます．本学会としては第18期と同様に，地質学研連，地質科学総合研連，鉱物学研連を登録しました．それらが，「関連研究連絡委員会」として指定（11月下旬に通知がある予定），それぞれについて1名ずつの候補者を届け出ることができます．さらにそれぞれの候補者について管理委員会から示される数（12月上旬に通知がある予定）の推薦人および予備者を届け出ることになります．

本学会からの会員および推薦人（予備者を含む）は以下の手順に従って行います．会員については従来通り推薦立候補制とし，複数立候補があった場合には会員による選挙を行います．

1）ニュース誌9月号に「会員候補者の推薦立候補に関する公示」・「会員選出に関わる日程と手続き」を掲載．
2）ニュース誌10月号に上記を再度掲載して広報を行う．
3）推薦立候補の締め切りを11月11日（月）正午（必着）とする．同日午後の執行委員会において受理．
4）「関連研究連絡委員会」ごとに複数立候補の場合には，ニュース誌11月号に投票用紙を綴じ込み，会員（正会員）に配布，投票締め切りは12月12日（木）（必着）．
5）2003年度第2回定例評議員会（2002年12月14日）において，会員候補者を決定，あわせて各候補者の推薦人と予備者を選出する．
6）前記の所定の期日までに会員候補者と推薦人（予備者を含む）をそれぞれ日本学術会議会員推薦管理会に届け出る．

日本学術会議第19期会員候補者の推薦立候補について

2002年9月13日
日本地質学会執行委員会

日本学術会議第19期の会員（2003年7月22日任命）の選出にあたり，日本地質学会からの会員候補者と推薦人（同予備者を含む）の選定を以下の要領で行います．なお，日本学術会議および本学会内の日程については裏面をご参照下さい．

会員候補者については，従来通り推薦立候補を求め，正会員（院生割引申請者を含む）による通信投票で選出することとします．つきましては，推薦立候補者の届け出を11月11日（月）正午必着で受け付けます．ただし，間に合わない場合にはとりあえず同時刻までにFAXでお送り下さい．推薦人（予備者を含む）については，12月14日の第2回定例評議委員会で，決定された候補者ごとに選出を行います．

推薦立候補者は下記の書式（A4版用紙使用）により，正会員（院生割引申請者を含む）5名以上の推薦状に本人の承諾書を添え，執行委員会宛にお送り下さい．その際，下記3研究連絡委員会のうち一つを必ず指定して下さい．
地質学研究連絡委員会（地質学会からの選定数1名）
地質科学総合研究連絡委員会（同上）
鉱物学研究連絡委員会（同上）

推薦立候補者の受理は11月11日（月）午後の執行委員会で行います．投票は，ニュース誌11月号に綴じ込まれる投票用紙により，関連研究連絡委員会ごとに通信にて行うこととします．投票締め切りは12月12日（木）（必着）とします．ただし，立候補者1名の関連研究連絡委員会については投票は実施しません．

推薦立候補届の書式

2002年　　月　　日
日本地質学会　御中

日本学術会議第19期会員推薦立候補届

正会員　　君を日本学術会議第19期会員候補者として推薦いたします．
関連研究連絡委員会：［地質・地質科学総合・鉱物］研究連絡委員会
推薦者（正会員）
1.　　印　2.　　印　3.　　印
4.　　印　5.　　印

――――――――――――――――――――――――――――――

上記の通り日本学術会議会員候補者として推薦を受けることを承諾します．

会員候補者　　印
専　門
現所属

――――――――――――――――――――――――――――――

連絡責任者氏名
住　所
電　話
e-mail

2003年度新役員紹介

会長

平　朝彦（海洋科学技術センター）

人類が直面する諸課題の解決に関して地質学の役割は非常に大きい．この期待に答えるため，地質学の実力を数段向上することが必要である．さらに，社会との接点を広く求め，国内外に積極的な活動を展開することが重要である．学会として社会的に責任ある活動を実行してゆくためには，法人化は不可欠であり，この点に関して会員諸氏の理解をお願いしたい．私自身も，学会のさらなる発展のために貢献したい．

副会長

加藤　碩一（産業技術総合研究所）

一言で言えば学会による「地質情報利用の高度化」に微力ながら貢献したいということですが，これは多様な意味を含みます．学会の主要な活動は言うまでもなく地質分野における知的資産の創成にありますが，他面その研究成果等が社会一般により活用されることが不可欠です．そのためには，地質情報の標準化，メタデータ整備，インターネット環境下における様々な情報交換の促進，使いやすい2次情報への加工，さらに，産業界との連携による基本的調査技術の継承・啓蒙活動が重要です．ご協力を．

副会長

木村　学（東京大学）

どんな嵐が吹いてもしっかりと足を踏ん張り，小さな歩みでも一歩一歩と前へ進んでいく．そして空が澄み渡った時，気がつくと燦然と輝いているような日本地質学会を目ざして働きたいと思います．これまでの研究企画委員会などで話し合われて来た「3つの理念：知の創造への貢献，人類と地球の持続的生存への貢献，社会要請への貢献」の実現に向けて，新しい日本地質学会をつくる意気込みで，会員の皆様と共に微力ながら奮闘したいと思います．

評議員

赤羽　久忠（富山市科学文化センター）

地質学の必要性と重要性が社会から認められ，頼れるシンクタンクとして地質学会が発展するよう努力したい．そのためにも，これから厳しい時代を迎える博物館の活動を守り改善していきたい．

足立　勝治（アジア航測(株)）

住民参加が定着しつつある公共事業には会員や学会の参画が求められています．コンサルタントの経験を活かして，これからの学会活動をさらに社会に貢献できるものにしていきたいと思います．

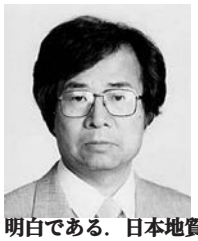
荒戸　裕之（帝国石油(株)）

地質科学の重要性の普及に努め，技術者・研究者の社会的地位向上と活躍の場の確保を目指すとともに，社会をリードし社会の要請に応えることのできる学会活動に寄与すべく，前期に引き続き評議員として努力します．

石渡　明（金沢大学）

私は岩石部会と火山部会に所属し，地質学雑誌編集委員（1999～），2001金沢大会準備委員，日本学術会議鉱床学専門委員（1997～）などを勤めました．今後は評議員として日本の地質学全体の発展のために働きます．

伊藤　谷生（千葉大学）



昨今，声高に主張されている競争原理によっては，学問研究，その成果の普及と還元，教育等の発展は不可能である．このことは，学問と文化の歴史をみれば明白である．日本地質学会が地質学に関する協働と協力をすすめる要としてさらに発展するために，社団法人化を軸とする組織の抜本改革に取り組む．また2004年千葉大会成功のための準備を進める．

井内　美郎（愛媛大学）

公約として掲げさせて頂いた，「地質学の社会的ステータスの向上に努める」ことに関しては，「明日を拓く地質学」の出版で多少約束を果たせたかなと思います．次なる飛躍に向かって，手を携えてさらに前進しましょう．

大友　幸子（山形大学）

多様な会員から構成される地質学会が，多くの会員にとって，より身近で有意義なものとなるように，また教育学部所属，女性会員の立場としてだけでなく，会員の声を学会運営に反映できるよう働きたいと思います．

片山　郁夫（東京工業大学：院生）

学生および若手研究者が活発に交流できる場になるよう，学生の立場から地質学会に新しい風を吹き込んでいきたいと思います．

狩野　謙一（静岡大学）

野外データをベースとした研究をふまえて，野外科学としての地質学の意義・重要性を伝えるために積極的に活動していきたい．なお，この一年間は地質学会静岡大会に向けて，全力を投入したい．

木村　純一（島根大学）

研究の大規模プロジェクト化，環境防災問題，地学教育への対応など，地質学はこれまで以上に多様な活動を社会から要求されています．地質学会が蓄積をさらに発展できるよう，微力ながら努めさせていただきたい．

公文富士夫（信州大学）

21世紀にも活躍できる学会として，会員の民主的権利の保障と学会としての近代的なシステムとをもった体制を少しずつつくりあげたい．法人化は一つの重要な基礎となるので，会員の合意をはかりながら，進めていきます．

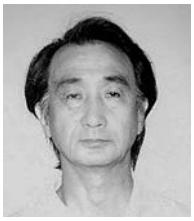
柴﨑　直明（国際航業(株)）

総合的な学問である地質学は，国内外の現場でますます重要になっています．評議員当選にあたり，地質学会の運営に会員の声を十分反映させて，地質学が社会に貢献できるように努力します．

新妻　信明（静岡大学）

研究・教育のありかたが問われている現在，地質学に関しては，海洋掘削船「ちきゅう」の建造など社会からの要請も増大しており，それに答えることのできる「地質学会」への脱皮と発展に尽くす所存です．

紺谷　吉弘（立命館高校）



中等教育の現場では，「特色づくり」のもとで，ますますカリキュラムの偏りが見られるようになってきました．地学教育の重要性をアピールし，教員層の活力が発揮できるように活動したいと思います．

鈴木　徳行（北海道大学）

あるべき自然観の形成，地球環境の保全，地球資源の開発にますます貢献できる日本地質学会の実現を目指して活動します．インターネット技術を活用した新しい会員サービスと学会運営を実現し，本学会の発展に不可欠な情報基盤構築に尽力します．

廣井　美邦（千葉大学）

2004年の千葉での学会開催のため，また変成岩・花崗岩研究伸展のため微力を尽くします．

斉藤　尚人（千葉県立犢橋高校）

高校教員という立場で，地学教育の振興のために努力したい．また，地学教育・研究にたずさわる会員の多面的な活動が学会に反映されるよう，多くの会員の声を集約する努力をしていきたいと思います．

徐　垣（海洋科学技術センター）

今，地質学会は変革の大きなうねりの中にあって，難しい時期にさしかかりました．学会長等人身も一新され新たな体制でこの難局に立ち向かおうとしております．このことを踏まえ，信任された期間，評議員として任期を全うしたいと考えております．皆様の御協力，御支援をよろしくお願いいたします．

松田　博貴（熊本大学）

これまでの石油公団・熊本大学での研究・教育，ODPや地質学会編集委員などの国内外の委員の経験を活かして，日本の堆積学ならびに日本地質学会の発展に寄与すると共に，国際的ならびに地域社会との連携を深めたい．

佐々木和彦（応用地質(株)）

地質学会を取り巻く環境が激変している今，学会体制の強化をしなければなりません．私は，地質学を社会に役立てている企業人の立場で，これまで同様学会運営に微力をつくす所存です．皆様よろしくお願いいたします．

田崎　和江（金沢大学）

地球環境問題の研究，教育，普及に取り組みます．女性地球科学者の未来を考える研究委員会を強化し，女性の研究環境の改善や研究の場の確保に努力します．

吉田　史郎（産業技術総合研究所）

ここ数年の社会情勢の変化は，以前に比べ格段にスピードが早まっていますが，地質関連分野もこの変化に無縁ではありません．この時期に評議員に選ばれたことに責任の重さを感じ，精一杯努力したいと思います．

佐瀬　和義（東京都立練馬高校）

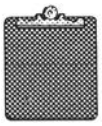
地学教育をめぐる状況の厳しさと同時に，地学教員のおかれている環境もきびしく，教員が学会にとどまって活動する条件が次第になくなってきつつあります．様々な階層の力をあわせてこのような問題が解決できるようにがんばっていきたいと思います．

玉生　志郎（産業技術総合研究所）

地下資源産業が衰退するなかで，地質学の貢献は，防災や地下空間の安全利用等の分野に急速にシフトしている．このような変化に対して，地質学会が何らかの役割を果すよう，一評議員として貢献していきたい．

吉田　武義（東北大学）

我々の生存の基盤である地球を総合的に理解するうえで，地質学は極めて重要な役割を担っていると思います．その地質学を支える学会の活動の一端を担いながら，地球へのより深い理解を目指したいと考えております．



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会よりの催し物のご案内を掲載します．

2002年活断層調査成果および堆積平野地下構造調査成果報告会の開催について

文部科学省は，地方自治体が平成13年度に実施した活断層調査及び堆積平野地下構造調査の成果等を広く普及するため，2002年活断層調査成果および堆積平野地下構造調査成果報告会を開催します．

報告会では発表の他，ポスターの展示などを行います．参加ご希望の方は下記の申込先までファックスまたははがきにてお申し込み下さい．

開催日：2002年11月18日（月），19日（火）
会　場：こまばエミナース　ホール（東京都目黒区大橋2–19–5）
主　催：文部科学省
目　的：地方自治体が実施する活断層調査及び堆積平野地下構造調査の成果等を発表し，これを広く普及させるとともに，専門家等の意見を今後の調査へ反映させることを目的として，成果報告会を開催します．
内　容：地方自治体が実施した活断層調査と堆積平野地下構造調査のうち，平成13年度で終了した調査の結果および平成14年度も継続中の調査の結果について発表します．また，発表を行った調査についてのポスターセッションも行います．
なお，プログラム等詳しい内容につきましては，下記連絡先までお問い合わせ下さい．
定　員：500名（先着順）
参加費：無料
申込方法：ファックスまたははがきで，氏名，住所（勤務先又は自宅），電話・ファックス番号，勤務先名を明記の上，下記までお送り下さい．
2002年11月12日（火）締切．
問い合わせ・申込先：
〒101–0064　東京都千代田区猿楽町1–5–18　千代田本社ビル5階
（財）地震予知総合研究振興会　地震調査研究センター
活断層・地下構造報告会係
電話 03–3295–1501　Fax 03–3295–1507

第19回東海地震防災セミナー2002のお知らせ

下記のとおり本年も開催いたします．関心をお持ちの方々のご参加を期待します．

日　時：2002年11月14日（木）
13：30－16：00
会　場：静岡商工会議所会館5階ホール（JR静岡駅北口西側）
テーマ：東海地震防災への新たな取り組み
座長：静岡大学理学部教授　里村幹夫
1.　東海地域の最近の地殻変動
国土地理院地理地殻活動研究センター
鷺谷　威
2.　東海地震と木造住宅
東京大学教授　坂本　功
主　催：東海地震防災研究会
連絡先：〒422–8035　静岡市宮竹1–9–24
土研究事務所
電話 054–238–3240　Fax 054–238–3241

核燃料サイクル開発機構 平成15年度「先行基礎工学研究」についてのご案内

概　　要　機構が取り組む研究開発プロジェクトに先行する基礎工学研究に関する研究協力テーマを機構が設定し，大学等の研究者から研究目的を達成する上で必要な研究協力課題を募集します．
募集研究協力課題件数　12件程度
研究分野　高速増殖炉開発及びそれに関連する核燃料サイクル技術開発，高レベル放射性廃棄物処分研究開発分野等で機構が取り組む研究開発プロジェクトに先行する基礎工学研究
協力形態　共同研究，客員研究員等
研究予算　1研究協力課題あたり，年間最大で300万円以下
応募資格　研究実施の代表者は，国内の大学等に所属する教官または同等の研究経歴をもつ者（ただし，既に機構の研究協力制度に研究実施の代表者として応募し採用されている者を除く．）
研究開始　2003年4月1日（予定：但し，契約締結後）
研究機関　原則として3事業年度以内とし，毎年度に所要の評価を行い，契約を更新します．
審査方法　書類審査及び口頭審査を行います．
応募締切　2002年11月15日（金）必着
問い合せ先　核燃料サイクル開発機構　技術展開部
技術協力課　亀田，深作：
電話 029–282–1122（内線41111，41127）
Fax 029–282–7980
E–mail daigaku@jnc.go.jp
（サイクル機構インターネットHP）
http://www.jnc.go.jp/

国際陸上科学掘削計画（ICDP）のプロポーザル募集

◆ICDPからの援助

国際陸上科学掘削計画（ICDP：International Continental Scientific Drilling Program）では，地球科学分野で掘削という手段を必要とする研究者チームからのプロポーザルを募集しています．プロポーザルの提出は研究代表者の労力を軽減するため2段階に分かれており，まずプレ・プロポーザル（Pre-proposal）を出し，それが受け入れられた時点で実施計画案（Full Proposal）を出すことになっています．すべてのプロポーザルは，国際的な研究者により構成されるICDPの科学諮問グループ（SAG）のレビューに回され，順位を付けて執行委員会（EC）に送られます．ここでプロポーザルを承認された研究代表者は，ICDPの技術支援グループ（OSG）からの技術的支援・助言を受け，実施計画案を用意することになります．提出された実施計画案が再度SAGで受け入れられた場合，ICDPは掘削関連経費の援助を行います（ICDP全体の予算は必ずしも大きいものではないため，ワークショップの開催などを除いて，援助は掘削費用の一部となります）．プロポーザルの提案は，ICDPメンバー国である日本の研究者・技術者に与えられた権利で，国内であればどのような機関・組織・会社であれ，所属の職員が提案できます．

◆プロポーザルの準備

プロポーザルは計画の初期段階での基本概念を述べるためのもので，その際に必要な項目は，⑴科学的目的と提案の理由，⑵マネージメントの計画，⑶実行可能性に関する言及：環境への影響，災害，安全対策，他からの技術・財政的支援の可能性，掘削の技術的問題を含む，⑷事前調査についての情報，⑸総予算と実施期間の見積もりとICDPへの要求額，です．なお，プロポーザルは提案機関ないしICDPのいずれの機関の実行責任も伴わない非公式文書として取り扱われ，それに国内予算額が書いてあっても，その予算が約束されているものとは受け取られないことになっています．

◆プロポーザル提出の流れ

日本からのプロポーザルは，ICDP国内実施委員会事務局（海洋科学技術センター・深海地球ドリリング計画推進室）がとりまとめます．国内から提出されたプロポーザルは，ICDP国内実施委員会が助言とICDPへの推薦を行い，各掘削計画の実現を目指します．

◆詳しい情報と申込み用紙

ICDP HP（http://icdp.gfz-potsdam.de）または，国内向けHP（http://www.jamstec.go.jp/jamstec-j/international/icdp/index.html）をご参照下さい．
更に詳細についてお知りになりたい方は，GeoForschungZentrum,Potsdam（GFZ）のDr. J_rn Lauterjungにお問い合わせ下さい．
E–mail lau@gfz-potsdam.de
Tel +49–331–288–1020
Fax +49–331–288–1002

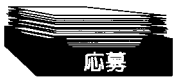
◆プロポーザルの提出先
国内からのプロポーザルはICDP国内実施委員会事務局がとりまとめますので，下記へ提出して下さい．
〒237–0061　神奈川県横須賀市夏島町2–15
海洋科学技術センター　深海地球ドリリング計画推進室　気付
ICDP国内実施委員会　事務局

◆本年度のプロポーザルの締切
2002年10月31日（木）必着

◆この件に関する問い合わせ先
町山　栄章（海洋科学技術センター）
E-mail bucci@jamstec.go.jp
Tel 0468–67–9292　Fax 0468–67–9255

公募

教官公募等の求人のニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．



山形大学理学部地球環境学科教官（助手）公募

1. 職種・人員：助手1名
2. 所属講座：地球物質システム講座
3. 研究分野：固体地球物質に関連する研究
4. 担当授業科目：「岩石学実験」「野外実習」など
5. 応募資格：以下の条件を満たす方
   (1) 年齢：30才代前半まで
   (2) 学位：博士号取得者
6. 着任時期　平成15年1月以降のなるべく早い時期
7. 提出書類
   (1) 推薦書1通
   (2) 候補者の履歴書（写真を添付して下さい）
   (3) 候補者の業績目録（査読論文とそれ以外に分けて下さい）
   (4) 候補者の主要論文別刷またはそのコピー（5編以内）
   (5) 候補者の学会等での講演目録（候補者が発表したものに限ります）
   (6) これまでの研究歴および今後の研究に対する計画（2000字程度）
   (7) 着任後の教育に対する抱負（2000字程度）
8. 募集締切：平成14年11月15日（金）必着
9. 書類送付先・問い合わせ先：
   〒990–8560　山形市小白川町一丁目4t12
   山形大学理学部地球環境学科学科長
   田中久雄　宛
   電話 023–628–4641（ダイヤルイン）
   E-mail tanaka@sci.kj.yamagata-u.ac.jp
   （封筒に「教官応募書類在中」と朱書きし，書留で郵送）　応募書類は返却しません．

地球環境学科の詳細については，
ホームページ（http://ksgeo.kj.yamagata-u.ac.jp）をご覧下さい．

（参考）本教室のスタッフと研究分野
自然環境システム講座
教授：陶野郁雄（災害科学）・山野井　徹（陸域古環境学）・斎藤和男（同位体地球科学）・長谷見晶子（地震学）
助教授：リチャード・ジョルダン（極域環境微古生物学）
講師：岩田尚能（地球年代学）

地球物質システム講座
教授：田中久雄（深成岩岩石学）・中島和夫（地球資源学）・丸山便明（海洋古生物学）
助教授：柳澤文章（地球表層物質動態解析化学）・鈴木利孝（地球化学）・伴　雅雄（火山岩岩石学）
助手：本公募

東京学芸大学教育学部　広域自然科学・理科教育講座地質古生物分野教官公募

1. 聴種および人員：助教授または教授1名
2. 採用予定日：平成15年4月1日
3. 専門分野：申・古生代の無脊椎動物化石による層序，分類・進化に関する研究
4. 担当授業科目：卒論指導（野外訴査を含む）一，地質学，古生物学に関する講義，演習・実験，地学教育に関する講義を含む場合もある
   教授の場合は連合大学院博士課程の指導教官も出来る方
5. 応募資格；博士の学位を有すること，年齢38才以上の方
6. 提出書類
   (1) 履歴書：写真を貼りつけ，連絡先を明記してください
   (2) 研究業寮リスト：査読のある，なしを明記してください
   (3) 最近5年以内の全ての論文の別刷り：査読のある，なしを明記，（コピーでも可）
7. 応募締切：平成14年10月31日必着
8. 応募書類の連出先および問い合わせ先
   〒184–8501　東京都小金井市貫井北町4–1–1
   東京学芸大学教育学部第三部地学教室主任
   猪郷　久治
   電話 042–329–7531，e-mail igohisa@u-gakugei.ac.jp
9. その他
   (1) 応募書類は封筒の表に「教官応募書類在中」と朱書きし簡易書留で郵送してください．
   (2) 応募書類の返送を希望する方は，宛先を明記し必要額の郵送切手を貼った封筒を同封してください．

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，執行委員会までお申し込み下さい．

第5回　大学婦人協会守田科学研究奨励賞受賞候補者募集要項

趣旨：
本賞は化学研究者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し，科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として，1998年に設けられたものです．

対象：
自然科学分野において，優れた研究成果をあげており，科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（応募締切日現在）の女性科学者を対象としています．

授賞件数：
年2件以内．賞状および副賞50万円．

提出書類：
1. 推薦状　2. 履歴書（写真添付）　3. 研究業績リスト　4. 主要な論文別刷り　5. 研究題目とその概要および今後の展望と抱負を記したもの（A4版2ページ以内）

応募締切：2002年11月30日（土）（必着）

書類送付先および連絡先：
社団法人　大学婦人協会
〒160–0017　東京都新宿区左門町11–6–1
電話 03–3358–2882　Fax 03–3358–2889

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．現金書留または郵便振替　00140-8-28067
No. 38 以前の論集：院生・学生は 4 割引，正会員は 2 割引　No. 40 以降の論集：院生・学生のみ 2 割引

地 質 学 論 集

第 21 号　続・日本列島の基盤．加納　博ほか編，331 pp., 1982 年 4 月刊，会員頒価 2,400 円，〒380 円
第 22 号　琉球列島の地史．木崎甲子郎ほか編，165 pp., 1983 年 4 月刊，会員頒価 2,100 円，〒310 円
第 26 号　白亜系の国際対比―現状と問題．平野弘道編，172 pp., 1985 年 3 月刊，会員頒価 2,000 円，〒310 円
第 30 号　日本の第四紀層の層序区分とその国際対比．市原　実ほか編，221 pp., 1988 年 4 月刊，会員頒価 2,000 円，〒340 円
第 31 号　関東地方の基盤と変動．福田　理ほか編，138 pp., 1988 年 6 月刊，会員頒価 1,600 円，〒310 円
第 33 号　西南日本内帯高圧変成帯とテクトニクス．西村祐二郎ほか編，357 pp., 1989 年 4 月刊，会員頒価 3,000 円，〒380 円
第 34 号　堆積盆地と褶曲構造―形成機構とその実験的研究－．三梨　昂ほか編，209 pp., 1990 年 3 月刊，会員頒価 2,500 円，〒340 円
第 37 号　古日本海東縁の新第三系―層序・古地理・古環境．小林巌雄ほか編，326 pp., 1992 年 3 月刊，会員頒価 3,000 円，〒340 円
第 38 号　変動帯における砕屑岩類の組成と起源―日本列島を例として―．君波和雄ほか編，401 pp., 1992 年 3 月刊，会員頒価 3,500 円，〒380 円
第 40 号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250 pp., 1992 年 12 月刊，会員頒価 3,200 円，〒340 円
第 41 号　中部九州後期新生代の地溝．長谷義隆ほか編，192 pp., 1993 年 6 月刊，会員頒価 3,100 円，〒310 円
第 42 号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357 pp., 1993 年 4 月刊，会員頒価 3,100 円，〒380 円
第 43 号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177 pp., 1994 年 4 月刊，会員頒価 2,000 円，〒340 円
第 44 号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335 pp., 1995 年 11 月刊，会員頒価 2,800 円，〒380 円
第 45 号　シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249 pp., 1995 年 8 月刊，会員頒価 2,500 円，〒340 円（僅少ですが残部ありました）
第 46 号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162 pp., 1996 年 9 月刊，会員頒価 1,900 円，〒310 円
第 47 号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323 pp., 1997 年 4 月刊，会員頒価 3,000 円，〒380 円
第 48 号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia (IGCP 350) Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188 pp.，1997 年 6 月刊，会員頒価 2,100 円，〒340 円
第 49 号　21 世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232 pp.，1998 年 3 月刊，会員頒価 2,500 円，〒340 円
第 50 号　構造地質　特別号―21 世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263 pp.，1998 年 7 月刊，会員頒価 2,500 円，〒380 円
第 51 号　地震と地盤災害―1995 年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162 pp.，1998 年 3 月刊，会員頒価 3,000 円，〒340 円
第 52 号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316 pp.，カラー 10 pp.，1999 年 9 月刊，会員頒価 3,000 円，〒380 円
第 53 号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401 pp.，1999 年 11 月刊，会員頒価 3,900 円，〒450 円.
第 55 号　ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221 pp., 2000 年 1 月刊，会員頒価 2,800 円，〒340 円.
第 56 号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253 pp., 2000 年 3 月刊，会員頒価 2,900 円，〒380 円.
第 57 号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240 pp., 2000 年 9 月刊，会員頒価 2,800 円，〒340 円.

リーフレットシリーズ
大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995 年 4 月発行　会員価格 200 円（非会員 300 円）
大地のいたみを感じよう―地質汚染 Geo-Poollututions 1997 年 2 月発行　会員価格 200 円（非会員 300 円）
大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001 年 5 月発行　会員価格 300 円（非会員 400 円）
下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1 枚 200 円（非会員 300 円）

討論会講演要旨（1979 年 4 月刊，東京四谷）会員頒価 700 円，〒340 円
第 92 年学術大会講演要旨（1985 年 3 月刊，山口）会員頒価 3,200 円，〒500 円
第 96 年学術大会講演要旨（1989 年 5 月刊，茨城）会員頒価 3,500 円，〒500 円
第 101 年総会・討論会講演要旨（1994 年 3 月刊，東京）会員頒価 1,500 円，〒400 円
第 103 年学術大会講演要旨（1996 年 4 月刊，仙台）会員頒価 3,500 円，〒500 円
日本の地質学 100 年（100 周年記念誌，1993 年 3 月刊）頒価 8,000 円，〒600 円
第 104 年総会講演要旨（1997 年 4 月刊，東京）会員頒価 700 円，〒300 円
第 105 年年会講演要旨（1998 年 9 月刊，松本）会員頒価 3,500 円，〒500 円
第 108 年年会講演要旨（2001 年 9 月刊，金沢）会員頒価 2,500 円，〒500 円
第 109 年年会講演要旨（2002 年 9 月刊，新潟）会員頒価 3,500 円，〒500 円
〃　見学旅行案内書（2002 年 9 月刊，新潟）会員頒価 1,500 円，〒500 円

・日韓構造地質研究会第 2 回合同大会（日本地質学会構造地質専門部会共催）のアブストラクトと巡検案内書：各 1,000 円

新版地質図・報告書類

Eastern Asia Geological Hazards Map 1 : 7,700,000
東アジア地質危険地図
1：7,700,000

加藤碩一・東アジア地質ハザードマッププロジェクト

〔産業技術総合研究所　2002年4月発行
英文解説書49頁付〕

多色刷り地図（A0版，2枚と凡例1枚，）と説明書（A4版，49ページ）のセットである．

過去の災害を把握し，その規則性から将来起こるであろう現象を予測することは防災の基本である．東アジアは人口密度が極めて高い．そして，自然環境の複雑さと発展途上国的な社会的な条件により引き起こされる様々な自然災害による被害を過去に何度も受けている．また今後も重大な自然災害を受ける可能性が高い．人命の損失は開発途上国で極めて深刻であり，1965年から1992年までに起こった災害のため，世界全体の犠牲者の90％以上がアジアおよびアフリカの領域にあったと見積もられている．自然災害による損害は，個々の国々の社会経済的な開発・発展により違いがあるが，これらの損害を小さくするためには，過去の自然災害を研究することとそれらの被害を見積もることが重要である．過去のデータの集積の上にたって，まとめられたこの様な地図は，今後政策立案者や一般大衆が人命の損害と被害を最小にする対策を考えるための基礎的情報を提供する．

日本の地質調査所（GSJ）は自然災害地図の作成および関連する環境問題に対処するための国際的な科学計画を1992年に京都で開催された第29回IGCで提案した．その後，1993年にはつくばでハザードマッピング国際フォーラムを開催，1994年から日本の地質調査所が中心になり，「東アジア自然災害マッピングプロジェクト」（EANHMP）という国際協力事業が開始された．この地図はその成果の一つである．この時期は「国際防災の10年（IDNDR 1990－2000年）」に重なり，UNESCOの防災活動やIGCP-383とも連動し，CCOP（東・東南アジア地球科学計画調整委員会），CGMW（世界の地質図委員会）の支援のもと実施されたものである．

1枚目の地図は，主に津波を含む地震および火山災害などの地球の内因による危険地図で，2枚目の地図は地すべり等の斜面災害や，様々な要因による海岸線変化および関連した現象（岩石海岸・サンゴ礁海岸・マングローブ海岸などの区別）などを地質学的背景のもとにまとめ図示してある．

扱っている東アジアの範囲は東経100°−160°・南緯10°−北緯50°で囲まれる範囲でユーラシアプレート・インドプレート・フィリピン海プレート・太平洋プレートが複雑に接する活発な変動帯を含む地域で，多数のサブダクション境界や断層も示されている．中国，インドネシア，日本，北朝鮮，韓国，カンボジア，マレーシア，パプア・ニューギニア，フィリピン，シンガポール，タイ，ベトナムにまたがる地域である．

解説書では，地質学的-地形学的背景・地震災害（島弧地域と大陸地域に分けて解説）・火山災害（雲仙，有珠火山（日本），ピナツボ火山（フィリピン）とメラピ火山（インドネシア）の迫力ある災害写真が入れられている）・地すべりと関連する斜面災害・海岸侵食と堆積・カルスト崩壊・地盤沈下をかなり具体的なデータを示してまとめている．

1枚目の地図には，過去2000年間に噴火した火山（1815年のインドネシアのTambora火山，1991年のフィリピンのPinatubo火山，10世紀の朝鮮のPaekdusan（白頭山）火山）の広域降下火山灰の分布域も示されている．その分布範囲は2000キロメートルを超えて多国間にまたがり，広域に分布していることも良くわかる．情報が少ない朝鮮半島北部のデータもそれなりに入れられている．

自然の現象（津波は，この地図でも扱っている．環境問題も含む）は，この地図でも扱われた火山灰の広域的分布からも明瞭にわかる様に国境など関係無い面がある．

ここでまとめられた様な国際協力によるデータベースの作成は今後ますます重要になってくると思われる．国々によって基準が異なる多国の研究者間の情報交換の交渉の末に，この様な形にまとめられた独立行政法人産業技術総合研究所つくば中央第7事業所地球科学情報研究部門の加藤碩一氏らの努力に敬意を表する．

（猪俣道也）

☆リーフレットシリーズ・3　好評発売中！！
『大地をめぐる水—水環境と地質環境—』

第1作「大地の動きを知ろう—地盤・活断層・地震災害—」，第2作「大地のいたみを感じよう—地質汚染Geo-Pollutions」に引き続きリーフレットシリーズ第3作「大地をめぐる水—水環境と地質環境—」が発売になりました．

A2版裏表カラー印刷，ハンディータイプでさらにポスターにもなります．

ご希望の方は以下の要領でお申込下さい．

会員価格300円　非会員価格400円

申込方法：学会事務局宛に，希望部数を記入し，返信封筒（切手貼付のこと）を入れてお申し込み下さい．

※少部数の場合は，代金は切手で同封可．

なお，サイズが横15cm・縦21cm，重さ25g/部ですので，郵送につきましては，以下のようにお願いします．

定型封筒の場合：90円切手貼付．ただし，二つ折りにしての郵送となります．

定型外（15cm×21cm以上）封筒の場合：130円切手を貼付．

学協会・研究会報告

ナミビア南西部メソ原生代地質帯の地質巡検（IGCP–418/440）

ゴンドワナ地質環境研究所・吉田　勝

真っ平らなナマ層群と，それに対象的なメソ原生代層（Neuhof層）の山地（シンクレア帯中部）

今年の7月28日から8月4日の7日間，表題の地質巡検に参加した．この巡検はナミビアの首都ウインドゥークで行われた第11回IAGOD（2002）・Geocongress（南アフリカ地質学会）合同大会に引き続いて行われたが，そのポストツアーではなく，IGCP–418と440の主催であった．

後期原生代の仮想超大陸ロディニアは，14–10億年前のグレンヴィリアン変動によって形成したと想定されている．アフリカ大陸南西部のメソ原生界は，カラハリクラトンの北～西縁を走り，ナマクア変動帯に連続するように分布する火成・変成帯である（下図）（Borg, 1988）．変動帯の巾は100km前後，延長はボツワナ北西部からナミビア南部を通って南ア南西部までほぼ1500kmで，ほぼ4つの堆積盆に分かれて分布しており，研究も別々に行われてきた．共通して12億年より古い（最近は14億年以前を示すデータがある）変表成岩類，それを不整合で覆う1200～1000Maの変表成火成岩類，これらの一部を貫く1200～1000Maの花崗岩質岩類，これらを不整合で覆う早期ネオ原生代の砕屑性表成岩層（ダマラ層群相当層）と後期ネオ原生代の各種堆積岩層（ナマ層群）などが分布する．全体として北方のダマラ変動帯を挟んで分布するキバラ変動帯やイルマイデ変動帯に類似した（とくに前者に酷似する）地質構成であり，南西に続くナマクア変動帯とも共通する点が多く，イルマイデ帯からナマクア帯まで連続する一連の変動帯として議論されることもある（Hoal, 1989）．このメソ原生代帯の造構環境については活動縁辺，リフト，背弧など諸説がある．最近のデータからは早期の活動縁辺から，後期の内プレート伸長テクトニクス場への変化というモデルが考えられる（Kampunzu, 1998）．いずれにしても，ロディニア超大陸を結ぶグレンヴィリアン期変動帯のなかでは最も研究されていない変動帯の一つであり，この変動帯の研究は今後のロディニア超大陸研究に大きな制約をもたらす可能性がある．ロディニア超大陸を主題とするIGCP–440と，アフリカ大陸のキバラ変動を主題とするIGCP–418が，今回この変動帯巡検を計画したのはこのような事情からであろう．

7月28日早朝，11カ国18人の巡検参加者は6台のジープに分乗してウインドゥークを出発した．フィールドリーダーはナミビア地質調査所のH.K. Hoffmannら3人，私のジープは先導車で，Hoffmann，Bogdanova（スエーデン），Gower（カナダ）と私の4人組であった．巡検のコースはウインドゥークから南に向かい，カラハリクラトンの縁に沿うメソ原生代堆積盆を，クラトンの北縁―北東縁―西縁と周って，ナマクア変動帯北部に達するという，全長約500kmの縦断コースであった．巡検第1日と2日目はウインドゥーク南西部のレホボスパレヲ原生代地塊周辺のメソ原生代岩体，3～5日目はレホボス地塊の南西に広がるシンクレア帯，6～7日目は同帯の南西に並走するナマクア変成帯を見学した．レホボス地域では，後期メソ原生代層は膨大な量の酸性と塩基性の火成岩類と，それらに挟在する石英質砂岩層と礫岩層が特徴的であった．また，花崗岩質岩類はしばしば著しく細粒で時に斑岩質であり，日本の濃飛流紋岩類を想起させるものがあった．しかし，岩質は圧倒的にアルカリ質で，多量のカリ長石のため岩石は全体として赤色から桃色であった．これらを不整合で覆う早期ネオ原生代層（ダマラ累層群下部）は礫岩，石英質砂岩が主体で，著しい変動を蒙っており，グレンヴィル期およびダマラ期の重複変動の解析が面白そうであった．シンクレア帯では，これらの地層に加えて，これらに不整合で覆われる早期メソ原生代岩類が多く観察された．これらはカイラブ岩体（シンクレア帯北西部のアワシブ山地）及びクンビス岩体（シンクレア主地域）で，各種の砕屑性堆積岩，酸性と塩基性火成岩類からなる中程度の変成岩類であった．これらの岩類の岩石学的研究は殆どなされていない．塩基性火成岩類はノーライトなどのカルクアルカリ岩類が多く，また細粒の砕屑岩も少なくない．これらを不整合で覆う後期ネオ原生代のナマ層群はごく一部を除いて真っ平らな水平層で，下位のメソ原生界とも，前記のダマラ累層群とも対照的であった．案内役のHoffmann氏は，シンクレア帯北部でメソ原生代層（Grauwater層）を不整合で覆うナマ層群基底不整合面の著しい褶曲構造を指摘し，ナマ層群堆積後，つまりパンアフリカ期最後期（約5億年前）の変動を強調していたが，上記のダマラ累層群の激しい全般的な変動に比べると大きな違いがある．むしろナマ層群堆積前（パンアフリカ期中期で，6～5.5億年前）の変動の大きさが実感された．ナマクア帯は同帯北部でシンクレア帯との境界付近を走るExcelsior-Lord Hill Shear Zoneのマイロナイト帯と，引き続いて南に圧倒的な量で変成岩中に貫入するペグマタイト岩脈が印象的であった．シンクレア帯とナマクア帯の関係は議論がある．一般的にはナマクア帯の変成岩類がシンクレア帯の基盤をなし，一部は同帯の早期メソ原生代層の変成岩類に対比されている（Watters, 1974 ; Hoal, 1989）．しかし年代的にはナマクア帯の変成作用は11～10億年前であり，むしろ後期メソ原生代層とその変成作用に対比されると最近の研究者は考えている（Becker & Schreiber, 2002）．両帯の地質図上の関係は，間に膨大な片状花崗岩（Tiras gneissose granite）が貫入しており，よくわ

アフリカ南西部，メソ原生代変火成岩類の分布と巡検地域（Kampunzuら，1998に加筆）．(a) Koras　(b) Sinclair　(c) Rehoboth　(d) Ghanzi　(e) Shinamba/Goha Hills　(1) Kheis Belt　(2) Koma-Kalomo Block　(3) Irumide Belt　(4) Kibran Belt

かっていない．

砂漠地帯のため露頭状況はどこも全山全露頭で，案内役の示す空中写真やマグサットデータが見事な地質図を再現してくれる．宿泊は毎晩テントで，夜はキャンプ地のレストラン，朝と昼は自前のビュッフェであった．参加者はなれた人が多く，食事準備や後片付けはナミビア地質調査所若手のトム君（T. Becker）やウテ嬢（U. Schreiber）を中心としてスムースに行われた．テントは2人1組で，私のテントメイトはカナダ地質調査所のGower博士であった．毎日日暮れまで露頭観察のあと，暗闇の中のテント張り，朝は食事前にシャワーをとり，テントをたたみ，ジープに積み込んで出発は8時というきびしいものであったが参加者全員余裕でこなしていた．キャンプ地はドライブ半日に1箇所程度は設置されており，ほぼどこもレストラン，ロッジ，シャワー室，自炊設備などが完備している一方，キャンプ施設は周囲の自然環境との調和に大きな注意が払われており，まことに快適なキャンプ生活であった．自然環境保全は昼間の野外調査中にも実感された．私達がドライブしたナミビア南西部砂漠地帯は雑草～潅木のまばらに生えたサバンナ的な砂漠で，とくに植生の少ない砂漠地帯の調査ドライブは，既存のトラックトレースに沿って行われた．砂漠化防止に細心の注意が払われ，トレースをはずさないこと，新しいトレースを作らないことが厳密に守られた．このため，トレースから相当離れた露頭まで，炎天下に車からの徒歩往復は結構時間とエネルギーを費やした．野外では，みかんの皮などのゴミもすべて完全に回収し，キャンプ地のゴミ箱に廃棄するし，Uターンするため数mトレースらはずれると，その分のトレースは箒ではいて消すという徹底ぶりであった．日本ではなかなかこんなふうには行かないと感じた．すばらしい全山露頭に優秀・熱心な案内役達に加えて，広大な岩石砂漠の風景，その風景に溶け込んだキャンプ場など，印象深いツアーであった．

レホボス地塊北東部，サバンナ草原とスターリン峰を背景に．この山は後期メソ原生代のBillstein層（山体の上部）と，Gamsberg花崗岩（同下部）からなる．

引用文献

Becker, T. & Schreiber, U., 2002, Mesoproterozoic Belts of Namibia. Field guidebook, IGCP Projects 418/440 Excursion, 28 July to 4 August 2002, Tectonics Special Research Centre, Perth, 62 pages.

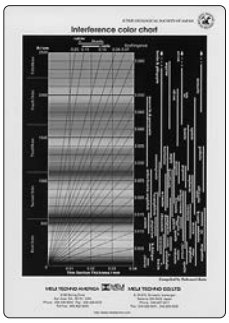
Borg, G., 1988, The Koras-Sinclair-Ghanzi rift in southern Africa : volcanism, sedimentation, age relationships and geophysical signature of a late middle Proterozoic rift system. *Precamb. Res.*, 38, 75–90.

Hoal, B.G., 1989, The geological history of the Awasib Mountain terrain and its relationship to the Sinclair Sequence and Namaqua Metamorphic Complex. *Communs. Geol. Surv., Namibia,* 5, 41–51.

Kampunzu, A.B., Akanyang, P., Mapeo, R.B.M., Modie, B.N., & Wendorff, M., 1998, Geochemistry and tectonic significance of the Mesoproterozoic Kgwebe metavolcanic rocks in northwest Botswana : implications for the evolution of the Kibaran Namaqua-Natal Belt. *Geol. Mag.,* 135, 669–683.

Watters, B.R., 1974, Stratigraphy, igneous petrology and evolution of the Sinclair Group in southern SWA. *Precambrian Research Unit, Univ. Cape Town, Bull.,* 16, 235.

「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）が下敷き（プラスティック製/A4版/両面カラー）になりました．



岩石学を学習する学生さんをはじめ，偏光顕微鏡を使用する全ての研究者の方々に有効に活用していただけることと思います．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．
会員価格 200円　非会員価格 300円

NOW ON SALE!!

博物館だより

岩手県立博物館

平成14年度特別展

「化石芸術/第1部：化石芸術～ドイツ・チュービンゲン大学・生痕化石コレクション～/第2部：花巻の足跡化石」

生痕化石がテーマの特別展です．第1部では，生痕化石などにみられる人知を越えた美しさを自然が造り上げた芸術として紹介します．この特別展はドイツの古生物学者アドルフ・ザイラッハー氏が企画したもので，長年の研究成果に基づいて世界中から収集された生痕化石などのレプリカが展示されます．それぞれに軽妙かつ格調高い科学的な解説が加えられていますが，これらを自然が造った芸術として理屈ぬきで楽しんでいただきたい，というのがこの特別展の趣旨です．第2部では，2年前に花巻市博物館建設敷地で発見されたゾウの足跡化石を紹介します．花巻は，今からちょうど80年前に宮沢賢治らによって日本で初めての足跡化石が発見された地です．賢治が横山又次郎の教科書で興味をもち，足跡化石発見のきっかけとなったと思われる「手獣」の足跡化石（Chirotherium，ドイツ，三畳紀）については，第1部で展示されます．

第1部は，国立科学博物館（2001年12月～2002年2月）・福島県立博物館（4月～6月）・飯田市美術博物館（7月～9月）の3館を巡回し，当館での展示が国内で見ることのできる最後のチャンスとなります．

会期：平成14年9月18日(水)～11月10日(日)
会場：岩手県立博物館特別展示室
休館日：毎週月曜日（ただし9月23日/10月14日/11月4日は開館，翌火曜日が休館）
開館時間：9：30～16：30(入館は16：00まで)
入館料：大人300円（140円）/学生140円（70円）/高校生以下無料/(　)内は20人以上の団体1人あたりの料金/学校教育引率者も無料
講演会：「アンモナイトの不思議」
加瀬友喜氏（国立科学博物館）
11月3日（日・文化の日）　13：30–15：30

秋期博物館セミナー　13：30–15：00
9月28日（土）
「賢治たちの盛岡付近地質調査」亀井　茂氏（岩手大学農業教育資料館）
10月12日（土）
「日本の地質学の開祖ナウマンと岩手の地質」今井　功氏（元岩手大学）
10月26日（土）
「博物館の化石展示の楽しみ」宮本　裕氏（岩手大学工学部）
11月2日（土）
「人と自然・芸術の境界線」大野正勝氏（岩手県立美術館）
展示解説会　10月5日（土）13：30–14：30

お問い合わせ先：岩手県立博物館
〒020–0102　盛岡市上田字松屋敷34番地
電話　019–661–2831/Fax　019–665–1214
http://www.pref.iwate.jp/~hp0910

手獣の足跡化石（Chirotherium）．

CALENDAR

2002, 9～

地球科学分野に関係する研究会，学会，国際会議などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆さまの情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

9月　September

☆日本地質学会第109年年会・総会（新潟大会）
9月14日（土）～16日（月）
場所：新潟大学（新潟市）

○第46回粘土科学討論会
9月19日（木）・20日（金）
場所　東北大学農学部・農学研究科　講義棟
東北大学大学院農学研究科　南條正巳
電話　022–717–8645　Fax　022–717–8649
e-mail　nanzyo@bios.tohoku.ac.jp

10月　October

○2002年度日本海洋学会　秋季大会
10月1日（火）～5日（土）
場所：北海道大学札幌キャンパス
http://fox10.hucc.hokudai.ac.jp/jos/

○日本火山学会
10月22日（火）～24日（水）
場所：仙台市戦災復興記念館
http://hakone.eri.u-tokyo.ac.jp/kazan/jishome

○2002年日本地下水学会秋季講演会
10月24日（木）～26日（金）
場所：沖縄県宮古島（ホテル・アトールエメラルド）
http://www.groundwater.jp/jagh/home.htm

11月　November

○日本地震学会　2002年秋季大会
11月11日（月）～13日（水）
会場：パシフィコ横浜
http://www.zisin.gr.jp/

○第18回ゼオライト研究発表会
11月21日（木）・22日（金）
会場：早稲田大学国際会議場
松方正彦（早稲田大学理工学部応用化学科
電話/Fax　03–5286–3850　e-mail　mmatsu@waseda.c.jp）

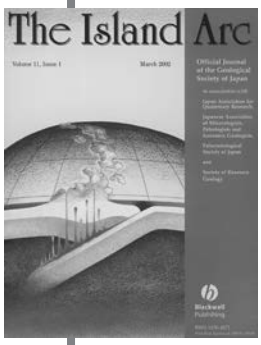
☆第12回環境地質学シンポジウム
11月22日（金）・23日（土）
場所：北とぴあ　7F　第1・2集会室
http://www.bekkoame.ne.jp/~jcenvgeo

2月　February　2003

○第8回太平洋地域新第三系国際会議
The 8th International Congress on Pacific Neogene Stratigraphy
2月3日（月）～5日（水）
場所：タイ国チェンマイ市プーカムホテル
連絡先：〒422–8035　静岡市宮竹1–9–24
土　隆一研究事務所
電話　054–238–3240　FAX　054–238–3241
E-mail：rtsuchi@mvi.biglobe.ne.jp

3月　March　2003

Second Conference on Salt Water Intrusion in Coastal Aquifers：Monitoring, Modeling and Management
2003年3月27日～4月2日
開催地：Merida, Yucatan, Mexico
詳細は，www.igeofcu.unam.mx/swica2/



The Island Arcは年4回発行されます．最新号のVol.11, Issue 3が2002年9月に発行されます．日本語要旨をニュース誌とホームページ（http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj/）にも掲載しています．全文はオンライン上（http://www.blackwell-synergy.com）で無料閲覧できますので，是非ご覧ください．閲覧方法はニュース誌7月号を参照してください．

（The Island Arc連絡調整委員会）

The Island Arc Vo.11 Issue 3には，以下の5編が掲載されています．

The Island Arc Vo.11 Issue 3

1．Tectonic and stratigraphic significance of the Middle Ordovician carbonate breccias in the Ogcheon Belt, South Korea

Author : In-Chang Ryu

韓国にNE–SWに走るオクチョン（沃川）帯北東部のテーバクサン盆地に分布する下部〜中部オルドビス系のモゴル石灰岩にはところどころに炭酸塩岩角礫岩が含まれる．これらの角礫岩については従来層内角礫岩または断層角礫岩と解釈されてきたのみであり，テクトニックおよび層序的意義についてはほとんど論じられて来なかった．しかし，本研究によって，これらの角礫岩の大半は溶解によって生じた角礫岩（溶解角礫岩）であり，パレオカルスト作用に関係して形成されたものであることが示された．

コノドント生層序学と炭酸塩岩の相解析は，マゴル石灰岩の上部に向けて全体的な海退があったことを示し，それは中期オルドビス紀初頭（最初期ダリウィリアン）中のプラットフォームにおける露出を促したと考えられる．その結果，広範囲な露出がパレオカルストを形成し，マゴル石灰岩の上部にそれに関連する溶解角礫岩が生じたものであろう．この地上での露出イベントは，北部中国や北アメリカの多くの場所で認められるのと同じ時代であり，スアクーティペカノ層の境界における中部オルドビス系の重要なパレオカルスト不整合に記録されている．このように地球規模の広がりを持つことから，この不整合は，中期オルドビス紀における2次および3次のオーダーの海水面降下によってもたらされたものと考えられてきた．韓国においては中部オルドビス系直下のパレオカルスト角礫が知られているが，スアクーティペカノ層の境界は，マゴル石灰岩の上部のパレオカルスト角礫岩のトップの整合的な海進を意味する．この直下のパレオカルスト角礫岩は，陸上露出がすぐに覆われるタイプの，タイダルフラットの卓越するサイクルの上方薄層化層からなり，それはパレオカルストに関連する溶解角礫岩の何回にもおよぶ産出と密接に伴う．このパレオカルスト角礫岩のゾーンは4次および5次のオーダーの海水準変動の結果と考えられる．2次および3次のオーダーの海水面降下は，マゴル堆積盆地の実質的なテクトニックな沈降によって緩和されたのものと考えられる．このテクトニックな沈降の証拠は，同時代のプラットフォームの沖合いの低海水準時のコーツァイトのレンズ状岩体と土石流タイプの炭酸塩岩角礫岩（たとえばイェミ角礫岩）などによって示される．引き続くテクトニックな沈降とその後の海水準の上昇によって，炭酸塩のプラットフォームは沈水し，パレオカルスト角礫岩ゾーンのトップには海進が記録された．このテクトニックな解釈は従来の緩慢な沈降モデルとは相容れない．よって，今回オクチョン帯北東部のテーバクサン盆地では，はじめ緩慢な沈降が起きたが，その後中期オルドビス紀初頭に急激な沈降が大陸内リフト性盆地の形成によって生じた，とのモデルを提唱する．このモデルはオクチョン帯のテクトニックな発達に対する層序的影響を解明する最もよいモデルである．この層序のテクトニクスへの反応は韓半島のテクトニックなフレームワークを論ずるときに依然として完全には理解されてこなかったものである．今回の研究は海水準変動サイクルにおいて，降下する際に，海水準の沈下の速度が堆積盆の沈降を下回らない限り，急激な沈降を起こした堆積盆では必ずしも意義のあるイベントとはならないというよい例でもある．

2．An unconformity in the esrly Miocene syn-rifting succession, northern Noto Peninsula, Japan : Evidence for short-term uplifting precedent to the rapid opening of the Japan Sea

Author : Kazuhiko Kano

能登半島北部で発見された前期中新世の不整合を記載した．この不整合は前期中新世前期の陸上火山噴出物–浅海堆積物からなる地層と前期中新世後期–前期中新世前期の内湾–半深海堆積物からなる地層とを画するもので，下位と上位の地層の間には数百万年の時間間隙がある．前期中新世前期の地層は初期の緩やかなリフティングを，前期中新世後期–前期中新世前期の地層は日本海拡大最高潮期の急激なリフティングを示す．両者を画する不整合は世界的海水準低下というよりは，急激なリフティング開始直前のアセノスフェア上昇に起因すると考えられる．この不整合に対比可能な前期中新世の不整合は，サハリンから西南日本に至る日本海沿岸に点在する．

3．Regional occurrence of orthopyroxene-bearing basic rocks in the Yanai district, SW Japan : evidence for granulite-facies Ryoke metamorphism

Author : Takeshi Ikeda

西南日本柳井地域において，領家変成帯の塩基性変成岩に初めて広域に斜方輝石が産することを明らかにした．産地は柳井地域の最高変成度，ザクロ石–菫青石帯に限られる．この帯は泥質岩中にザクロ石-菫青石-カリ長石–黒雲母の共生がみられることで定義される．斜方輝石は含水鉱物（黒雲母，カミングトン閃石）と共存し，一部ホルンブレンドや単斜輝石とも共存する．このことは，領家変成作用の最高変成度が，従来認識されていた角閃岩相高温部ではなく，グラニュライト相低温部に達していたことを意味する．

4．Geochemical and Sm-Nd isotopic characteristics of metabasites from central Hainan Island, South China and their tectonic significance

Author: Xian-Hua Li

Hainann島の変成堆積物より成る古生層中にレンズ状に産する変成塩基性岩について，主成分，微量成分およびSm-Nd同位体比組成を求めた．多くの変成塩基性岩はソレアイト質の集積ガブロであり，液相濃集元素に乏しい特徴を有する．また，これらの岩石は，MORBに匹敵する高いNd同位体比で特徴づけられる．ある変成塩基性岩について，333±12 MaのSm-Nd年代が得られ，これはマグマの結晶年代を示すものと考えられる．これらの化学的特徴は，変成塩基性岩の起源マグマが，海洋域でのMORB起源マントルの融解によって形成されたことを示唆している．これらの塩基性岩は古テチス海の海洋地殻の一部であったものが，前期中生代にオブダクトしたもの，もしくは，火山性大陸周縁域でのリフティングに伴って形成された岩石である可能性が考えられる．

5．Opening geometry of the Kurile Basin (Okhotsuk Sea) asa inferred from structural data

Author : Boris Baranov

北西太平洋オホーツク海の千島海盆は，千島弧の背弧盆であり，大洋底地殻で占められ，その起源は背弧盆の拡大によると考えられ

てきた．その様式としては，拡大軸の方向がNE–SWまたはNW–SEである，とする2つのモデルがあった．今回，千島海盆の北部および中央部の斜面の実体の新しいデータにもとづき，拡大軸はNW–SE方向であったとの説を提唱する．シングルおよびマルチチャネルの音波探査記録と海底地形からは，北部ではNW走向の正断層群が卓越し，中央部では基盤の海嶺地形はNNW–SSEに伸びる（これをサクラ海嶺と命名した）．この海嶺は，火山体の斜面が対称的に引き裂かれたことを示す明瞭な地形を示す．これらのデータは千島海盆がNE–SW方向へ拡大したことを示す．プレートテクトニクスにもとづく復元からは，サハリンと北海道を通るN–S走向のシアゾーンにそう，右ずれスリップを伴うNW–SE方向への拡大が，従来考えられてきたが，今回の研究によるモデルでは，オホーツク海の拡大は，南部におけるNE–SW走向のシアゾーンに伴う右ずれ変位に関連するものと考えられる．

院生コーナー

筑波大学大学院生命環境科学研究科 地球進化科学専攻海洋変遷科学分野（連携大学院方式）

山田　桂（D5）

この筑波大学大学院は，全国でも珍しく5年一貫制の博士課程であり，新入生はD1，最終学年はD5と呼ばれます．そのため，5年間かけてじっくり研究を深めることができます．多くの人は入学後2年間で修士論文を提出した後，博士論文に着手します．また，他大学の修士課程を終えた学生が，本学の3年次に編入することもできます．

もう一つの大きな特徴として，当研究科は連携大学院方式を採用しています．連携大学院方式は，「国立・民間企業等の研究所等と連携を図り，研究科の一層の充実と学生の資質の向上を目指し」て取り入れられた制度で，学外の研究者を大学の教授又は助教授として迎え，その併任教官から直接指導を受ける方式です．全国では15大学31研究科が採用しています．現在この地球進化科学専攻海洋変遷科学分野には，同じつくば市にある独立行政法人産業技術総合研究所（旧地質調査所）の鹿野和彦教授，柳沢幸夫教授，田中裕一郎助教授の下，3人の学生が所属しています．

連携大学院方式の良い点はいくつかありますが，私が強く感じたのは様々な研究者と顔を合わせられること，実際に研究を仕事としている現場に入ることができ，その雰囲気を感じることができることです．第一線で活躍されている研究者との共同研究によって，博士論文の作成のみならず，研究に対する姿勢や研究者としてのあり方など，大きな影響を受けます．また，国内外の各分野における現状や今後の方向性など，研究に関する最先端の情報が伝わってきます．研究者の数が多く，幅広い分野の研究者に会うことができるというのも，視野を広げる良い機会です．しかし，単に異なる分野の研究者がいるのではなく，自分に近い専門分野の研究者も多数いるため，研究内容に関する議論は専門的になります．このような学外の研究者との議論を通して，多くの研究者の意見を存分に聞くことができ，研究のモチベーションも上がります．ここで築かれた研究者とのつながりは，大学院を修了した後でも非常に大きな意味を持ってくると思われます．

もちろん，学外に研究の場を設けた場合，大学における情報があまり入ってこない，大学の教官・院生とのつながりが薄くなりがちになるなど，マイナスな点もあります．しかし，この点は十分各自で補うことができ，実際にはじめの1年間は大学を生活の場とし，その後学外に研究の場を移す学生が多いようです．私も，大学の授業に出席するためと大学内の教官・院生と交流の機会を増やすため，最初の半年間は筑波大学で過ごしました．今思うと，その半年は大学内の友人を作るという面から見ても大変大きな意味がありました．また，筑波大学には副指導教官を設け，大学との連携の補佐的役割も果たしていただいており，大学側のサポートもしっかりしています．研究の場を大学内におく学生もいますが，大学と産業技術総合研究所は車でわずか15分の距離にあり，いつでも各教官の

指導を受けられる状態にあります．その場合でも週に数回は産業技術総合研究所に通い，指導を受けています．

国立・民間の研究所では，周囲に学生がいないと思うかもしれません．大学に比べればもちろん学生は少ないのですが，全くいないというわけではありません．研究所にもよりますが，現在私が研究を行っている産業技術総合研究所の同じ部屋・隣の部屋には，他大学の連携大学院に所属する院生が数名います．また同じ棟にはポスドクやフェロー，海外からの共同研究者などもいますし，時々技術指導を受けに他の研究所や他大学の人が訪れます．むしろ学生がすくない分，学生同士のつながりが広がりやすく，様々な大学や幅広い分野の学生と出会うことができます．そう言う意味では，学内ではあまり経験できない，他大学の院生とも交流を深められることも魅力の一つです．

当然のことながら研究機器も非常に充実しており，興味を持った研究のほとんどは研究所内で着手することができます．また，月に一度産業技術総合研究所の研究者と筑波大の教官・学生によって，セミナー（新生代古生物学セミナー）が開催されています．ここでは学生・教官・産業技術総合研究所の研究者が各自の研究内容を発表するだけでなく，つくばに来られた研究者に話題提供をして頂くこともあります．産業技術総合研究所では，これ以外にも多くのセミナーが開催されており，専門分野以外にも興味を広げるよい機会が多くあります．このように，研究設備の充実はもちろんのこと，学生として貴重な経験ができ，非常に恵まれた研究環境が整っています．

以下，学生の研究内容を紹介します．

山田　桂（D5）　微小甲殻類の一種である貝形虫化石を用いて，古環境復元を行っています．現在は，後期鮮新世の最温暖期から北半球の氷床拡大に伴う寒冷期への移行期における日本海沿岸域の海洋環境に着目し，富山県・新潟県・秋田県に分布する上部鮮新統を対象に，汎世界的気候変動が日本海に与えた影響について，検討しています．

須藤　斎（D4）　現在筑波大学の連携大学院制度を利用し，産業技術総合研究所の柳沢幸夫博士について，主に海底コアサンプルを用いて珪藻の休眠胞子化石の研究を行っています．珪藻の休眠胞子化石はその存在は知られていましたが，分類や層序といった基本的な研究はほとんどされていないのが実状です．そこで現在は分類とその産出頻度，産出地などを調べています．この研究がうまくまとまれば，より詳細な古環境の復元や層序が組めると考え，研究を進めております．

大田美由紀（D1）　セディメント・トラップ試料を用いて放散虫の群集解析を行っています．原生動物界・放射仮足網に属する放散虫は水塊の指標となる可能性が指摘され，その生態学的特性は古環境を復元する手掛かりとなりえますが，いまだに詳細は明らかにされていません．そこで，セディメントトラップ試料を用いて，異なる水域で観測された放散虫フラックスや群集変化を比較し，現存量，繁殖期，科レベルの相対頻度の緯度変化等，放散虫の生態学的知見を深めています．現在は科レベルの群集解析を行っていますが，今後は種レベルでも検討を行う予定でいます．

学生でありながら，研究所の設備を利用して研究を行うことができるチャンスはそれほど多くないと思います．もちろん，大学で研究を行った場合でも多くのことを学べるはずです．しかし，大学内では経験できないことに触れ，社会に出てゆく前に，わずかでも社会の様子を知ることができることは貴重な体験です．またここで得たこと，感じたことは，研究以外の様々な場面でも役立つでしょう．私たちの分野に興味を持たれた方，新生代古生物学セミナーで発表していただける方は，ぜひ山田（k-yamada@aist.go.jp）までご連絡下さい．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の2人でおこなっています．e-mailでいただければ幸いです．
naruse@bs.kueps.kyoto-u.ac.jp　成瀬　元（京大）
tomaru@gbs.eps.s.u-tokyo.ac.jp　戸丸　仁（東大）

院生（研究生）の方へ「院生割引会費申請」について

平成15年（2003年）分会費の継続・新規受付開始

昨年より会則・運営細則の変更により，会費の院生割引制度が設けられました（旧院生会費相当額）．定収のない院生（研究生）については，本人の申請により院生割引会費が適用されます．つきましては，次年度（平成15年度）の会費について申請受付を開始しますので，該当される会員は下記の書式にて申請書を提出して下さい．なお．毎年更新となりますので，今年度の割引を受けている方で，次年度も該当する方は改めて申請書（継続として）をご提出ください．会費請求書発行の都合もありますので，受付締切は11月20日までといたします．

（日本地質学会　会計委員会）

2003年度日本地質学会会費院生割引申請書

（新規・継続）

日本地質学会　御中

私は，運営細則第12条第1項（1）に基づき，会費の院生割引を申請いたします．

年　　月　　日現在

会員番号：

会員氏名：

所属：　　大学　　研究科

専攻　　前期・後期　　年在学中

上記，本学の学生につき，定収のない院生であることを証明いたします．

指導教官（等）

所属：

氏名：　　印

☆関東支部

報告

第10回　関東支部火山灰巡検（富士火山の地形地質）報告

6月15日（土）～16日（日），富士火山起源のテフラ・溶岩等を対象とした火山灰巡検を，日本地質学会関東支部主催，山梨地学会共催で実施しました．案内は，都留文化大学上杉陽氏，山梨県環境科学研究所輿水達司氏・内山高氏の3名にお願いしました．参加者は，幹事を含めて29名（案内者を除く）でした．その内訳は，地質コンサルタント関係者17名，大学・官公庁の研究者4名，小・中・高教職員4名，学生4名で，関東および中部（山梨県，長野県，静岡県）からの参加者で構成されていました．参加申込者が多く，締切3週間前に定員に達してしまい，その後の10数名の申込者に，参加のお断りをしたことをお詫び申し上げます．参加者を代表して，松本徹哉氏に感想を寄稿して頂きました．以下に記します．

（染野　誠　記）

梅雨入りしたばかりの肌寒い曇天の中，総勢31名の参加者は，巡検案内書を大切に抱えて，富士北麓～南東麓の露頭を巡りました．今回の参加メンバーの多くが，この分野に何らかの関わりを持っている，いわば玄人であったということで，当初の計画よりもコースが大幅に変更されたようです．

1日目：太郎坊（新富士噴出物）⇒上紫怒田（姶良丹沢火山灰ATおよび古富士火山噴出物）⇒道志スポーツランド（姶良丹沢火山灰AT）⇒鳴沢村「吉野荘」泊（夜11時過ぎまで幹事部屋にて懇親会）

2日目：富士吉田登山口五合目（剣丸尾溶岩流出期のテフラ，小御岳火山溶岩，御庭火口列）⇒スバルライン一合五尺（剣丸尾第二溶岩，新富士火山テフラ群）⇒スバルライン一合目（剣丸尾第一・第二溶岩）⇒福沢橋（剣丸尾第二溶岩，天神峠テフラ群）⇒吉田胎内神社（洞窟，洪水性堆積物，大室山テフラ群等）

写真2.　露頭で説明する上杉　陽氏

写真1.　御庭火口列にて

富士山に関する最新の研究成果，特に形成発達史などは，専門家でなくても興味を抱く部分だと思います．今回の火山灰巡検は，そのような欲求にも充分答えてくれるものでした．案内者の方々による解説がとても丁寧でわかりやすく，カラーコピー入りの巡検案内書と見合わせることにより，各露頭では無駄のない充実した時間を過ごすことができました．わずか2日間の巡検で，富士火山の噴出物の見方の基本はもちろんのこと，富士山に関わる様々な知識も体得できた気がします．露頭前やバスの中だけではなく，懇親会でも様々な討論がされ，参加者の熱意の高さも相当なものでした．最近では，地質調査業界においても，火山防災関連の業務が増え，充分な防災対策の必要性も指摘され始めています．このような状況下で，富士火山は，まさに渦中の山となりつつあります．既に，このような業務に関わっておられる参加者のお話は，大変興味深いものでした．両日とも，いまいちの天候が続きましたが，低い雲を通り抜けて標高2,000 mを超えた2日目の午前中には，雲間から富士山頂を拝むことができました．得るものも充分にあり，また，和気藹々とした本当に楽しい巡検でした．最後に，このような巡検を成功させた案内者の方々と，関東支部幹事の方に心からお礼を申し上げます．

（松本徹哉：川崎地質株式会社　記）

＜担当幹事＞
染野　誠（基礎地盤コンサルタンツ株式会社），
青野道夫（青野地質コンサルタント）

―活変動地形判読セミナー2　報告―

関東支部では去る5月18日，25日，6月8日に，横浜国立大学名誉教授太田陽子先生を講師にお迎えし，「活変動地形判読セミナー2」を開催しました．本セミナーは昨年に引き続き2回目の開催で，今年は13名の参加がありました．

セミナーでは，非常に貴重な海外の空中写真などを実際に実体視しながら，地形判読の基本，活変動地形判読のノウハウなどを，太田先生の懇切丁寧なご指導により学ぶことができました．

幹事として，何より参加してくださった皆様の熱心な姿勢に感激しました．心よりお礼を申し上げます．応用地質(株)には，会場を提供していただきました．誠にありがとうございました．そして，ご多忙中にもかかわらず，講師を快く引き受けて下さいました太田先生に心より感謝いたします．

関東支部では，今後も多数のイベントを企画・開催する予定ですので，是非ご参加下さい．また，ご意見・ご希望などがありましたら幹事までお寄せ下さい．

（関東支部幹事　佐藤尚弘）

―活変動地形判読セミナーに参加して―

2002年5月～6月にかけ地質学会関東支部主催で開催された，太田陽子先生の『活変動地形判読セミナー』に参加させて頂きました．空中写真を用いた地形判読は仕事で多少扱ったことはあるものの，正式に習ったことはなかったので，この分野の第一人者である太田先生に教えて頂ける絶好の機会と思い参加しました．全3回の講習のうち2回しか参加できませんでしたが，とても勉強になりました．

初回の講義では西津軽沿岸の空中写真を用い，広域に発達する海成段丘面や，河口に発達する扇状地面，また，海成段丘崖に多く見られる地すべり地形を見て，空中写真判読→地形図落とし→地史を読むという一連の作業を行いました．この講義では恥ずかしながら，地形判読をする際の心構えを正されました．「空中写真判読の際，判読の時点で誤差が生じ，それを地形図に落とす際にまた誤差が生じる．だから判読の線を入れる際には十分な考慮と注意深さが必要である．」という話を伺い，自分がこれまで鉛筆の先をそれほど尖らせず，アバウトな線をひいていた事を自覚しました．先生が仰ったように注意深く海成段丘面や地すべり地形など抽出してゆくと，一連の面と見えていた海成段丘面にかつての砂丘があることや，海成段丘面は緩やかな勾配で海側に傾斜しているのに対し，旧河口に発達している扇状地面は急勾配で海側へ傾斜していることなどが次々と見えてきて，とても面白かったです．また，段丘崖に多く見られる地すべりについて，現地調査でその滑落崖付近に正断層系の露頭があったことなど，露頭スケッチを交えて話され，現地での確認の大切さを強調されていました．太田先生といえば，逆断層による撓曲崖の形成を初めて提唱された先生ですが，「撓曲崖の提唱当初は誰にも相手にされなかった．しかし地形判読による抽出→現地調査による確認という作業を繰り返し，実証していった．」という話をされており，現地調査による確認があってこその地形判読であるという事を改めて実感しました．

最終回の講義で最も印象に残っているのは，信濃川沿いの活構造判読です．新潟へは，ほぼ毎年，花火を見に出かけていたのですが，上信越道沿いにあのようにバラエティに富んだ活構造があるとは知りませんでした．おかげで，今年は車窓からの景色が楽しめました．ちょっとしたレジャーの前にも事前に地形判読しておくといろいろ楽しめるものだとわかり，今後もやってみようと思います．

（(株)環境地質　平田夏実）

執行委員会だより

2002年度　第15回執行委員会

期　日：2002年9月2日（月）13：00～20：00
場　所：地質学会事務局
出席者：立石執行委員長　公文・天野・伊藤・渡部各執行委員
　　徳岡副委員長　水野・橋辺（事務局）

主な報告・審議事項は以下の通り．

1）　神戸大学付属図書館長より8月12日付けで地質学会宛に「震災資料のデジタル化に伴う著作権者の承諾」についての依頼があった．知的財産権問題と関わり，検討が必要と判断し，継続審議とした．

2）　顧問として委嘱予定の公認会計士の篠原通夫氏を招いて今後の会計処理について懇談した．氏からは会計処理の適正化に関していくつかの面について有益な意見・示唆を得ることができた．懇談の結果を具体化していくために，会計担当委員と橋辺事務主任で早急に検討を行うこととした．

3）　新潟年会での優秀講演賞選考方法について検討した．

4）　9月6日（金）に倫理規定等検討委員会を開催し，最終答申とりまとめを行う．

5）　News誌9月号に日本学術会議第19期会員選出の公示を行うこととした．

6）　入札に基づいて2003年-2004年の地質学雑誌・News誌の印刷社を日本印刷株式会社とすることにした．

7）　9月第5回評議員会の議事と議事進行ならびに総会の議事進行について検討した．

8）　総会以降の事務局体制について
　総会以降，橋辺事務主任に事務局長に就任していただくこととした．水野事務局長は総会で退任されるが，10月まで引き継ぎ，総会・評議員会の報告作成などを処理していただくため，嘱託を委嘱することとした．

2003年The Island Arc誌　vol.11購読についてのお知らせ

The Island Arc誌は1998年より電子出版化され，今年3月からオンライン上で閲覧できるようになっています．地質学会の会員は無料で過去の分を含めて閲覧・印刷できます．ただし完全にオンライン化されたわけではなく，従来通り印刷物としての発行は続いてます．購読は有料で，従来と同額（正会員8000円，院生割引・学生6000円）です．

現在，来年度のThe Island Arc誌の購読者の確認を行っています．

The Island Arc**誌を印刷物で購読中の方で，来年度以降購読を中止される方，または，来年度から新規に印刷物での購読をお申し込みになる方は，10月末日までに学会事務局までご連絡ください．**（購読を継続される場合は連絡不要です．）

継続・新規購読の方には，来年度（2003年度）の会費請求の際，年会費と併せて請求させていただきます．

The Island arc連絡調整委員会

取扱い地質図一覧（委託販売 ）

02/7/31現在

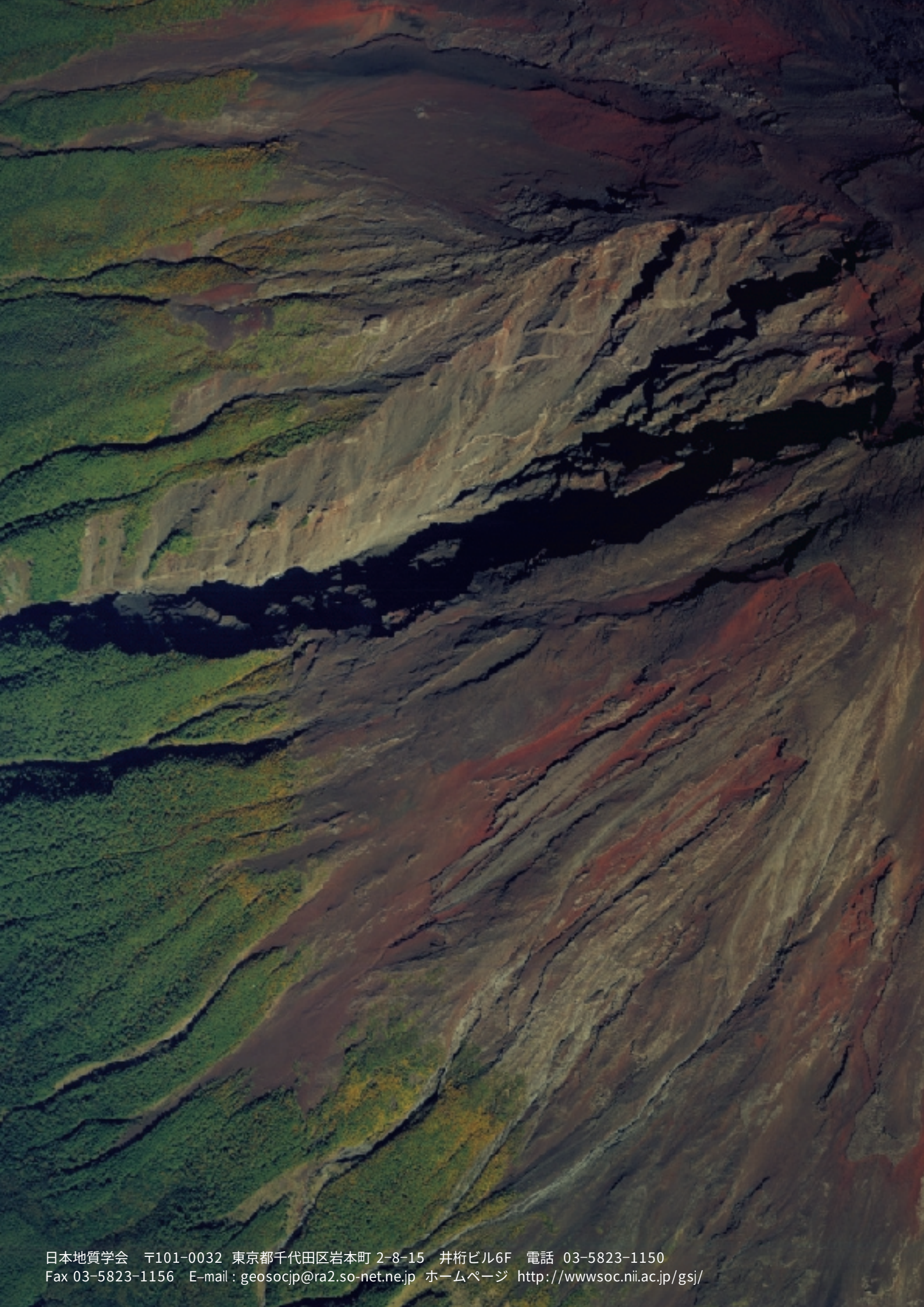
会員には代金後払いで注文をお受けします．電話かFaxにて（なるべくFaxで），地質学会事務局へお申込み下さい．

Tel. 03-5823-1150, Fax. 03-5823-1156

100万分の1日本地質図　第3版　4枚組　¥6,000
100万分の1日本重力図（ブーゲー異常）　¥3,700
地球化学アトラス　-北関東-　¥5,300
200万分の1地質編集図
　コンピュータ編集による日本地質図（付記付き）¥2,200
　日本の磁気図（説付き）　¥2,400
300万分の1 日本列島地温勾配図　¥1,600
数値地質図
　200万分の1東・東南アジアの数値地質図（説付き）　¥2,500
　20万分の1地質図幅集（画像）ver.2.0　¥1,500
　日本の新生代火山岩の分布と産状　CD-ROM版　¥1,200
　東・東南アジア都市域の地球科学データ CD-ROM版　¥1,100
　日本地質図索引図（第1集〜第8集　CD-ROM版1963〜1999）　¥900
　北海道地質ガイドマップ　CD-ROM版　¥900
　東・東南アジア都市域の地球科学データ（第２版)CD-ROM版　¥1,100
　富士火山地質図CD-ROM版　¥1,100
　日本重力図CD-ROM版（説付き）　¥900
　400万分の1東アジア磁気異常図 CD-ROM版（第２版）　¥900
　400万分の1韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集 CD-ROM版（第２版）　¥1,000
　日本周辺海域音波探査データベース　CD-ROM版　¥900
　東北・九州地熱資源図CD-ROM版　¥900
特殊地質図
　東京湾とその周辺の地質　¥5,900
　秋田地熱資源図　¥4,800
　諏訪湖湖底堆積状況図（1:1.35万）　¥1,500
　東海沖海底音響画像図（1:40万）　¥700
　札幌-岩内地域火山・鉱化熱水系分布図　¥3,600
　札幌地熱資源図　¥4,400
　青森地熱資源図　¥4,900
50万分の1鉱物資源図
　北海道（東部，西部）　¥6,800，東北　¥4,100，
　関東甲信越　¥4,300，中部近畿　¥4,300，
50万分の1地質図幅
　旭　川（第2版）　¥2,000
50万分の1活構造図
　東京(第2版)　¥3,100，*京都(第2版)　¥3,500
2.5万分の1地質構造図
　阿寺断層系ストリップマップ（説付き）¥2,800
　中央構造線四国地域活断層ストリップマップ（説付き）¥4,300
　中央構造線近畿地域活断層ストリップマップ　¥2,300
　柳ヶ瀬-養老断層系ストリップマップ(1:10万)　¥2,400
　糸魚川-静岡構造線活断層系ストリップマップ（1:10万）¥2,400
　兵庫県南部地震に伴う地震断層ストリップマップ
　野島・小倉及び灘川地震断層-（1:1万，説付き）¥3,400
　花折断層ストリップマップ　¥2,700
海洋地質図
　鳥取沖海底地質図（1:20万，説付き）　¥3,800
　鳥取沖表層堆積図（1:23万，説付き）　¥3,100
　室戸沖表層堆積図（1:20万，説付き）　¥2,700
　経ヶ崎沖表層堆積図（1:20万，説付き）　¥2,900
　下北半島沖海底地質図（1:20万，説付き）　¥3,200
　経ヶ崎沖海底地質図（1:20万，説付き）　¥3,400
　粟島周辺海底地質図（1:20万，説付き）　¥5,200
　佐渡島北方表層堆積図（1:20万，説付き）　¥3,500
　佐渡島北方海底地質図（1:20万，説付き）　¥4,100
　豊後水道南方海底地質図（1:20万，説付き）¥4,800
　豊後水道南方表層堆積図（1:20万，説付き）¥3,700
　駿河湾海底地質図（1:20万，説付き）　¥5,400
　ゲンタツ瀬海底地質図（1:20万，説付き）　¥3,900
　塩屋崎沖海底地質図（1:20万，説付き）　¥5,000
　響灘表層堆積図（1:20万，説付き）　¥3,700
　ゲンタツ瀬表層堆積図（1:20万，説付き）　¥3,600
　日向灘表層堆積図（1:20万，説付き）　¥3,400
　塩屋埼沖海底地質図（1:20万，説付き）　¥3,400
　響灘表層堆積図（1:20万，説付き）　¥3,400
　*能登半島西方表層堆積図（1:20万，説付き）　¥3,400
海外地球科学図　（英文）
　東・東南アジア熱流量図（1:500万）　¥2,200
　中国モウス沙漠よび周辺地域の水文環境図（1:50万，説付き）¥6,700
　韓国南部・日本西部及び周辺海域の地球科学図集　¥1,300，
　*東アジア地質災害図　¥3,500
重力図　（ブーゲー異常）1:20万
　青森地域　¥2,100，秋田地域　¥1,400，
　山形地域　¥1,400，北上地域　¥2,300，
　渡島地域　¥1,700，苫小牧地域　¥1,500，
　札幌地域　¥1,700，帯広地域　¥1,500，
　旭川地域　¥1,500，北見地域　¥1,500，
　根室地域（2枚組）¥2,400，天北地域　¥1,800，
　名寄地域　¥1,800，大分地域　¥1,700
　*福岡地域　¥2,300，
空中磁気図
　尖閣諸島海域　¥2,000
　伊豆大島地域(1:5万)伊東周辺地域（1:2.5万）¥1,000
　雲仙地域（1:5万）　¥1,000
　西表島周辺地域（1:10万）　¥1,000
　*由利原地域高分解能空中磁気異常図（1:5万）　¥2,600
火山地質図
　桜島火山（1:2.5万）　¥1,200，　有珠火山（1:2.5万）　¥1,100
　草津白根火山（1:2.5万）¥1,500，阿蘇火山（1:5万）　¥1,100
　北海道駒ヶ岳火山（1:5万）　¥1,700，浅間火山（1:5万）　¥1,700
　青ヶ島火山および伊豆諸島南方海底火山（1:1万，1:65万）¥2,500
　雲仙火山（1:2.5万）　¥1,100，那須火山（1:3万）　¥2,100
　伊豆大島火山（1:2.5万）　¥1,700，霧島火山（1:5万）　¥1,500
日本炭田図
　天草炭田地質図　¥6,800
日本油田・ガス田図
　新潟県中部地域　¥3,700
20万分の1地質図幅
　相川及び長岡の一部　¥1,700，青森　¥2,200，奄美大島　¥1,800，
　飯田（第2版）¥2,300，厳原　¥1,300，岩内　¥2,300，宇都宮
　¥2,600，浦河　¥2,500，宇和島　¥2,000，*岡山及び丸亀
　¥2,500，鹿児島　¥2,400，金沢　¥2,600，唐津（第2版）　¥2,100，
　岐阜　¥2,600，木本　¥1,300，久米島　¥1,800，高梁　¥2,400，
　徳島（第2版）　¥2,000，日光　¥2,800，富山　¥2,300，
　長野　¥2,900，名寄　¥2,200，八丈島　¥1,300，八戸　¥2,200，
　福岡　¥2,400，*水戸　¥2,600，宮崎　¥2,500，村上　¥2,600，
　夕張岳　¥2,400，和歌山　¥2,500
５万分の１地質図幅　地質図1:5万，地域地質研究報告
　明石　¥2,400，赤名　¥2,700，姉崎　¥3,400，飯豊山　¥3,000，
　飯山　¥5,500，出雲崎　¥3,200，厳島　¥2,400，犬飼　¥3,400，
　伊平屋島及び伊是名島　¥1,800，今市　¥2,900，岩ヶ崎　¥4,300，
　石見大田及び大浦　¥3,800，上野　¥4,000，浦郷　¥3,200，
　恵比島　¥2,800，大分　¥3,800，大阪西南部　¥2400，大阪西北部
　¥2,400，大阪東南部　¥3,400，大阪東北部　¥3,800，大須
　¥2,400，小値賀島及び肥前平島　¥2,400，大宮　¥2,900，尾鈴山
　¥3500，折尾　¥3,000，海田市　¥2,700，柿崎¥3,300，柏崎
　¥4200，金山　¥3,100，*川前及び井出　¥6,000，上高地　¥3,500，
　刈和野　¥2,400，木曽福島　¥4,000，北小松　¥3,900，岐阜
　¥3,700，京都東北部　¥3,700，熊川　¥3,600，熊田　¥3,300，
　倉橋島及び柱島　¥2,900，黒石　¥3,400，桑名　¥3,200，下呂
　¥2,700，神浦　¥2,800，神戸　¥3,100，小倉　¥3,700，佐伯
　¥3,000，佐賀関　¥2,600，桜井　¥4,000，篠山　¥2,900，*三条
　¥4,100，椎葉村　¥4,300，志津川　¥4,100，清水　¥2,700，
　*白馬岳　¥3,600，末吉　¥3,100，須磨（2版）¥2,400，洲本
　¥2,600，相馬中村　¥5100，園部　¥2,900，高遠　¥4,200，
　田島　¥3,500，龍野　¥3400，立山　¥4,700，谷汲　¥2,400，
　玉庭　¥4,300，竹生島　¥2800，津西部　¥4,100，敦賀　¥3,600，
　十勝池田　¥3,400，豊岡　¥2,400，苗場山　¥2,700，長岡
　¥4,000，中野　¥2,500，那古　¥1,800，名張　¥3,200，奈良
　¥3,700，二本松　¥2,900，*西津　¥4,100，二本松　¥2,900，
　乗鞍岳　¥3,200，八海山　¥2,700，姫島　¥2,600，広島　¥1,500，
　広根　¥3,500，福江　¥2,600，福岡　¥3,700，福知山　¥3,200，
　北条　¥4,000，真　壁　¥3,600，松江　¥3,300，松之山温泉
　¥3,700，三重町　¥3,200，三津　¥2,500，美濃　¥2,400，宮原
　¥4,500，槍ヶ岳　¥2,900，温泉津及び江津　¥4,200，湯湾
　¥3,200，横須賀　¥2,700，横山　¥3,700，四ッ谷　¥2,500
　寄居　¥3,000，和歌山及び尾崎　¥2,300

*印のついたものは2002年新刊及び新刊扱いです．

*このほかの地質図，産総研地質調査総合センター出版物の詳細は以下のホームページhttp://www.aist.go.jp/GSJ/Map/でご覧になれます．



日本地質学会　〒101-0032 東京都千代田区岩本町 2-8-15　井桁ビル6F　電話 03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail : geosocjp@ra2.so-net.ne.jp ホームページ http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj/